

週刊 かわら版

生徒と保護者のための



いよいよ来週はテスト

まだまだ、授業日数が少ないが、さっそく来週は中間考査。

が一番大切である。

資格試験情報

- ニュース検定 締め切り5月16日
- 硬筆書写検定 締め切り5月16日
- 色彩検定
- 高校生笑い日本一決定戦 笑顔甲子園 7月5日締め切り
- 韓日交流作文コンテスト

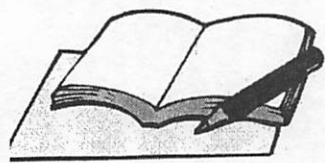
情報

- パソコン利用技術検定 締め切り5月19日
- おおすみくん家 ボランティア養成研修 5月30日締め切り
- 数学甲子園2017 6月13日締め切り
- 絵葉書・写真・動画 コンテスト 6月20日締め切り
- 高校生笑い日本一決定戦 笑顔甲子園 7月5日締め切り
- 韓日交流作文コンテスト
- 心からの手紙コンクール 9月8日締め切り
- パソコン甲子園
- プログラミング部門 7月28日締め切り
- モバイル部門 7月7日締め切り
- CG部門 9月1日締め切り
- 高校生小論文コンクール 10月31日締め切り

保護者会総会

日時・5月13日(土)
場所・本校体育館
受付・各学級
8時30分～9時

中間テスト



一年生にとっては、高校初めての定期テスト。まだまだ、基本的なことが出題されるだろう。ある塾のキャッチフレーズに「基本とは簡単なことではない、基本とは大切なことだ」とあった。まったくそのとおりである。この一学期の中間テストを大切にしないか、今後の学習に大きな差が生じるのは間違いない。三年生にとっては、一学期の成績が就職、進学の影響を大きく受ける。このことを意識し準備してほしい。当然、ノートや宿題の提出がしっかりなされていること

先見コーナー

- 5/13(土) ○保護者会総会 (本校)
 - 第1回 e-プレップ科1年留学説明会
- 5/15(月) ○全校朝会(県総体壮行会)
 - 生活指導部によるオリエンテーション
 - 医療福祉科3年 介護実習～6/8
- 5/16(火) ○中間考査(予備日) 帰りのSB発車平常通り
 - ◆ ニュース検定・硬筆書写検定申し込み締め切り
- 5/17(水) ○中間考査 帰りのSB発車 12:25
- 5/18(木) ○中間考査 帰りのSB発車 12:25
 - ◆ 色彩検定申し込み締め切り
- 5/19(金) ○中間考査 帰りのSB発車 13:30 (注意)
 - 生徒会総会(4限) ⇒ 3限終了後すぐに体育館へ
 - ◆ パソコン利用技術検定締め切り
- 5/20(土) ○職員検診 ○自専攻科オープンキャンパス
- 5/21(日) ◆ TOEIC
- 5/22(月) ○全校朝会 ○職員会議
 - 教育実習(～6/2) ⇒ 実習生9人
- 5/23(火) ○学科朝会(普通・マルチ・特進)
 - 情報祭委員会(昼休み)
- 5/24(水) ○学科朝会(シス・自工・医福)

次のかわら版6号は5月19日(金)に発行予定です。

学級保護者会

9時～9時40分
個人面談
～10時25分まで

委員会

9時45分～10時25分

総会

10時30分～12時

駐車場

創価学会様駐車場
送迎バスがあります。

スクールカウンセラー

スクールカウンセリングの申し込みが、増えつつあります。実施には、予約と諸手続きが必要ですので、ご希望の日の一週間前までに申し込みをしてください。教育相談部で日程調整をします。

日程調整中

○ 5月19日(金)
時間は毎回9時～12時30分
最終受付は11時30分です。

最近のHP更新

- アクティブラーニングの環境として接待実習を実施
- SNSによる鹿児島観光PRの取り組み
- 3級自動車整備士国家試験結果報告
- 老人ホーム
グランガーデン鹿児島 慰問交流

クールビズ実施中

ご理解ください

清流

なぞなぞ。「日本全国、登り坂と下り坂はどちらが多い?」答えは「同じ」▼宮沢賢治の書いた「銀河鉄道の夜」の中に、「なにが幸せか、わからないです。ほんとうにどんなにいいことでも、それが正しい道を進む中ででき」となると、峠の上りも下りもみんなほんとうの幸福に近づくとあしらずですから」とある▼いわゆる五月病というものがある。何かしら、やる気がでない。登っていたはずの坂が、下っているように思える。五月にはそんなことを考える人が増える▼ちよっと前にあったドラマ。それぞれの夢が叶わなかった四人、人生のピークに到達することなく、ゆるやかな下り坂の前で立ち止まっている者たちでもある。こんな四人を軸に展開するドラマ「カルテット」。「過去」のある人間が集い、「本当のこと」を隠しながら上滑りの会話をしていく物語でもあった▼プロデューサーの佐野氏は、毛利元就のことは借りて「人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、そして、まさか」が、このドラマのテーマでもあると言っていた。また、元就は「まさか」の時の人の動きが、人を上り坂に押し上げるか、下り坂に突き落としつかを握っているのだ、とも続けている。